プロセスシステム工学アジア国際会議 2016

7th International Symposium on Design, Operation and Control of Chemical Processes

プロセスシステム工学　第１４３委員会

１．概要

○開催期間：平成２８年７月２４日（日）　～
　平成２８年７月２７日（水）
○開催場所：東京大学伊藤国際学術研究センター
○参加者数：２６８人
○予算総額：２２，５００，０００円

２．実施内容・成果及び成果公開について

本会議は、プロセスシステム工学に携わる研究者が最先端の研究課題・成果を発表し集中的に討議するとともに、アジア地域の研究者の交流を促進し、国際的な共同を加速させることを目的として開催された。正式名称は International Symposium on Design, Operation and Control of Chemical Processes であるが、国際的には「PSE Asia」として認知されている。2000 年に第 1 回会議が京都で開催されて以来、アジア各国において 2～3 年おきに開催され、7 回目を迎えた本会議は東京大学伊藤国際学術研究センターで 2016 年 7 月 24 日（日）～27 日（水）に開催された（大会実行委員長：京都大学・長谷部伸治教授、東京大学・平尾雅彦教授）。参加者の総数は 268 名（国内 83 名、国外 185 名）で、韓国、台湾、中国、タイ、マレーシアからは二けたの参加者があり、この他インドネシア、ギリシャ、スイス、アラブ首長国連邦、スペイン、ポルトガル、インド、英国、シンガポールからの参加があった。PSE Asia 創設以来のモットーでもある「若手研究者の交流促進」に沿って、プロセスシステム工学の将来を担う学生の参加が多かったことは大変喜ばしいことであった。また、海外から若手研究者 8 名をキーノート講演者として招へいしたほか、20 名の学生に渡航助成を実施した。

学会としては、1 日目午後のレセプションに引き続き、2 日目～4 日目に 127 件の口頭発表、36 件のポスター発表と 10 件のキーノート発表を実施した。図 1 は、全発表のアブストラクトをテキストマイニングした結果で、単語の出現頻度を大きさで表したものである。「Control」や「Design」「Model」のようなプロセスシステム工学の根幹をなすものから、「Data」「Drug」「Health」のような新しいテーマが含まれていることが分かる。若手研究者によるキーノート発表でも同様の傾向がみられ、プロセスシステム工学の今後の発展を期待させる学会となった。査読付きプロシーディングスは USB メモリーで配布した。

図 1　アブストラクトの解析結果

３．今後の課題について

今回のような「アジア」「若手研究者」にスポットライトを当てた国際学会を開催する上では、渡航助成などの支援が重要となる。本学会では日本学術振興会平成 28 年度産学協力国際シンポジウム、第 4 回東京大学伊藤国際研究センター、化学工学会 SIS 部会ならびに関連各企業からの助成を受けた。これにより海外若手研究者の招へい・渡航助成をはじめ、学会運営をスムーズに行うことができた。このような援助体制をさらに充実させることが今後の課題といえる。